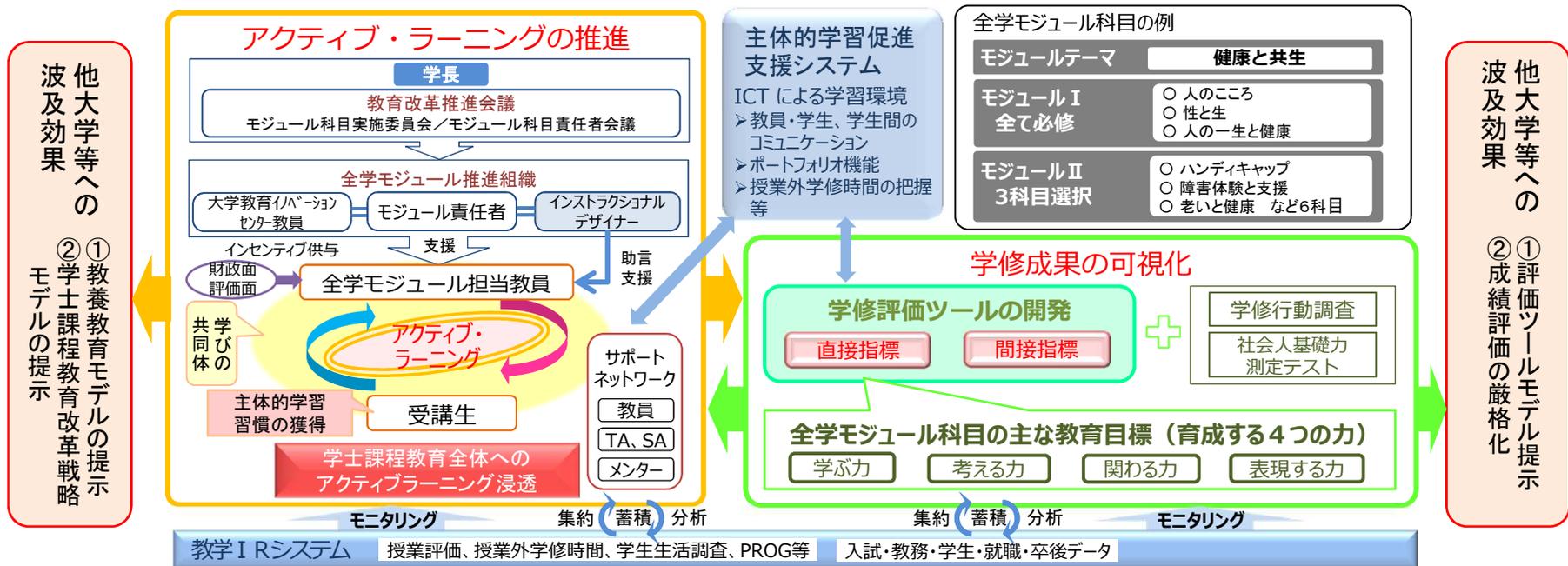


大学等名：長崎大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

取組概要 これまで中教審答申等で、学生の主体的学修・ジェネリックスキルの獲得の重要性が強調され、学士力向上も求められている。長崎大学では、「学士力という付加価値を実感させる」教育への大胆な変革を意図して、平成24年度よりモジュール方式（全学モジュール）の教養教育を導入した。モジュールとは、現代的テーマの下にパッケージ化された科目群のことであり、学生は提供されるモジュールテーマの一つを選択し、アクティブ・ラーニングを通して、汎用的技能（学ぶ力・考える力・関わる力・表現する力）の育成を行う。モジュール方式教育の最大の特長は、一年半の間、教員と学生が学びの共同体を形成する点にあり、それは新しい学び（＝アクティブ・ラーニング）を開発、進化させる絶好の環境を提供するものである。

本事業では、学長直轄の推進体制のもと、全学モジュールに重点化して、効果的・効率的なアクティブ・ラーニングの開発・進化・普及を図るとともに、学修成果の可視化を実現することにより大学全体の学士教育改革を目指す。



他大学等への波及効果
① 教養教育モデルの提示
② 学士課程教育改革戦略モデルの提示

他大学等への波及効果
① 評価ツールモデル提示
② 成績評価の厳格化

	26年度	28年度 (目標値)	30年度 (目標値)
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合(全学モジュール)	100%	100%	100%
全学モジュール担当教員のアクティブ・ラーニングの成功割合	61%	80%	100%
学生の授業外学修時間	10時間未満	20時間	27時間

本事業は、モジュール化した新しい教養教育を標的に、(1) 効果的・効率的なアクティブ・ラーニングの開発・進化・普及と、(2) 学修成果の可視化を実現し、大学全体の学士教育改革の完遂への原動力とするものである。全学モジュールの担当教員は本学の全教員の3分の1に相当する約300名に上り、彼らが本事業を通して、アクティブ・ラーニングに通暁することによって、教養教育だけでなく専門教育を含む学士課程教育全体に効果的・効率的なアクティブ・ラーニングを浸透させるものである。